

項目	委員意見	県の考え方	発言者
1 基本的事項	交通全般を対象とするということで、「4 対象」については個別に列挙する必要はないと思われる。一方、交通を取り巻く状況等については、公共交通以外のプレイヤーについても入れた方がよい。	「4 対象」については、「鉄道やバス、タクシーなどの公共交通はもちろんのこと、人の移動を支える輸送資源を幅広く捉え、対象とします。」と修正するとともに、「交通を取り巻く状況 ④その他の輸送資源の状況」について、新型輸送サービスの記載を追加しました。	西尾委員
2 社会経済の展望と交通を取り巻く状況	自家用車から公共交通へのシフトと意識を持っていただく必要がある。特に高齢ドライバーの事故防止という観点は必要だと思うが、あまり記載されていない。	高齢者が自家用車に依存しなくとも生活の質を維持できる環境づくりは重要な観点と考えております。「(2)自動車交通の変化と高齢化による影響」を「(2)高齢者の運転免許返納と若者の自動車離れ」に変更し、愛知県の交通死亡事故件数及び高齢者構成比の推移のグラフを追加し、高齢ドライバーの事故防止の観点をより明確にしました。	多田委員
2 社会経済の展望と交通を取り巻く状況	交通事故が多いことに対して、どのように進めていくかの記載が少ないように思う。		森委員
3 目指すべき方向	「モビリティ先進県」がわかりにくい。	ご意見を踏まえ、先に見据えるモビリティ先進県がイメージできるよう、進捗イメージ・都市部における将来像・地方部における将来像の図を追加しました。	西尾委員
3 目指すべき方向	どういうまちづくりになっていくかがイメージしづらい。		深谷委員
3 目指すべき方向	ジブリパークやリニア中央新幹線など目先の話題が多く、2040年を見据えてのことだが、将来像がイメージできない。		森委員
3 目指すべき方向	2040年を展望という点で、beyondジブリ、beyondアジア競技大会、beyondリニア中央新幹線を感じ取れるようなものがあるとよい。		松本座長
3 目指すべき方向 4 施策の方向性	モビリティの総動員という視点をぜひ入れていただきたい。モビリティを総動員することによって、多くの地域の交流・対流を促進していくことが重要である。	「3 目指すべき方向」として、輸送資源を総動員しながら、交流をさらに活発にしていこう趣旨を追記しました。また、「4 施策の方向性 まもる」における「②輸送資源の総動員による移動手段の確保・充実」を始め、様々なモビリティの活用により移動手段を確保・充実していく旨を記載しています。	大串委員
4 施策の方向性（全体）	例えば、道路交通の改善等は公共交通の走行環境の改善にもつながる。「交通ビジョン」とすることで、建設局とも連携を取りながら、渋滞対策や交通安全、自転車利用を始め、道路の活用といった視点を入れてもらえると素晴らしいビジョンとなると思う。	「まもる」の「安全な公共交通サービスの提供」について「②交通安全対策の推進」に交通事故防止に資する道路環境の改善に関する記載を追加したほか、「つなぐ」にまちづくりの観点から、新たな項目「④快適に移動できるまちづくり」を追加するなど、地域の移動環境を良くする視点を追加しました。また、「たかめる」「ひきつける」において、公共交通の利便性向上にも期待ができる主な取組（「名古屋高速道路の名古屋駅アクセス改善や利便性向上」等）を追加しました。	松本座長
4 施策の方向性「まもる」	都市部のことに偏っている印象を受ける。もう少し、過疎地というか、地方のことを加えられた方がよい。	地方部における移動手段の確保や交流の促進は重要な観点と考えております。施策の方向性「まもる」の「持続可能な移動手段の確保・充実」に、新たな項目「④山間・離島地域の暮らしを支える取組の推進」を追加しました。	森委員
4 施策の方向性「まもる」	地方こそ、モビリティの課題が大きくなっている。モビリティの確保や様々なモビリティの活用という点で、地方の視点を入れた方がよい。		石川委員
4 施策の方向性「まもる」	運転手不足はどんな影響があるのか、なぜ運転手不足が問題なのかがあまり記載されていない。		「持続可能な移動手段の確保・充実」における「⑤交通分野における担い手の確保」として、運転手不足がサービスの低下や地域の移動手段の確保に大きな影響を及ぼす旨を記載しています。

項目	委員意見	県の考え方	発言者
4 施策の方向性「まもる」	耐震や防災というところの記載が少ないように思う。	「安全な公共交通サービスの提供」の「①災害に強い公共交通ネットワークの形成」の記載について、内容を拡充しました。	田口委員
4 施策の方向性「まもる」「ひきつける」	主な取組に「わかりやすい情報提供に向けた運行情報等のデータ化の推進」とあるが、データ化そのものが目的となっているような印象を受ける。データを使って利便性を向上させていくことが重要である。	「運行情報のデータ化等わかりやすい情報提供に向けた取組の推進」に修正をしました。	石井委員
4 施策の方向性「まもる」「ひきつける」	主な取組に「名古屋東部丘陵地域におけるMaaSの導入に向けた実証実験の実施」とあるが、5年間実証実験に取り組んでいくような印象を受ける。また、実証実験が目的ではないと思う。	「名古屋東部丘陵地域におけるMaaSの導入及び他地域への導入促進」に修正をしました。	西尾委員
4 施策の方向性「たかめる」	港湾について、物流のことが主となっているが、クルーズ船の話を入れていただけるとよい。港との行き来に対する観光を含めた人やモビリティの動きの話があるとよい。	「スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり」の「⑤港湾の機能強化」に、クルーズ船の話題を追加します。	大串委員
4 施策の方向性「ひきつける」	リニア中央新幹線の開業に際しては、ビジネス利用はもとより、観光の魅力をつけて、愛知県へ引き込むことが重要である。東三河を始め、人を呼び込んでいくような視点を、道路等も含めて、少し入れられるとよい。	「観光交流を促進する交通ネットワークの充実」における主な取組として「リニア中央新幹線の利活用に向けた取組の推進」等を追加しました。	榊原委員
4 施策の方向性「ひきつける」	「ジブリパーク開業に向けたリニモ沿線地域づくり」となっているが、ジブリパーク開業のインパクトは大きい、リニモ沿線に限らず、他の交通機関とも繋げて、広域的な取組とされるとよい。	「ジブリパーク開業に向けたリニモ沿線地域づくり」を「ジブリパークを活かした県内周遊観光の促進」に変更し、リニモ沿線はもとより、県内への周遊に導く施策内容としました。	榊原委員
4 施策の方向性「つなぐ」	ウォークアブル（歩行者空間）、自転車やマイクロモビリティの走行及び駐車空間なども含め、道路空間がうまく再配分され、公共交通が走りやすくなるような、空間形成の視点があるとよい。	施策の方向性「つなぐ」に、まちづくりの観点から、新たな項目「④快適に移動できるまちづくり」を追加しました。	大串委員
5 施策の推進に向けて	公共交通に特化した項目であり、公共交通以外の交通に関する項目を追加してはいかがか。	公共交通への実用化が期待される自動運転実証実験件数や、公共交通における脱炭素化を進めていくための水素ステーション整備数等の項目を追加しました。	松本座長・西尾委員